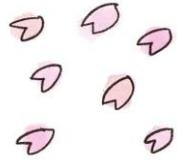




わかれ と はじまり



やどかりのおひっこし

エリック＝カール さく もり ひさし やく 偕成社 Eーカ

やどかりは大きくなり、かいらのいえがすこしきゅうくつになりました。いごちがいいいえだったのですが、おひっこしすることにしました。やどかりは大きくてじょうぶそうなかいらをみつけ、「ぼくのいえにしよう」ときめます。けれども、かいらがじみでさびしいので、どうしたらいいかかんがえました。

とん ことり

林 明子 え 筒井 頼子 さく 福音館書店 Eー八

ひっこしてきたかなえが、にもつのせいのてつだいをしていると、「とん ことり」とげんかんのほうでちいさなおとがしました。かなえがげんかんにいくと、ゆうびんうけのしたに、すみれのはなたばがおちています。げんかんのドアをあけましたが、にわのむこうはしらないとおりで、しらないひとがあるいているだけでした。

フクロのひっこし クマのプーさんえほん

A. A. ミルン ぶん 石井 桃子 やく 岩波書店 933ーミ

フクロの家が吹きたおされてしまい、ベツの家をさがしはじめるときがきました。みんなでフクロの家をさがそうと、ウサギがてがみをだしてよんでまわります。プーとコブタがフクロの家へつくと、みんながあつまっていますや絵などいろんなものをフクロのあたらしい家へもってゆけるように、古い家からひっぱりだしているところでした。

魔女の宅急便

角野 栄子 作 福音館書店 913-カ

魔女は十三歳になると自分の家をはなれて、魔女のいない町や村をさがしてたったひとり、暮らしはじめなければいけません。キキはある満月の夜に旅立ち、海に見える南へ飛んでいきます。やがて時計台のある大きな町が見えてきました。町を気にいったキキは、ここに住むことに決めます。

ルドルフとイッパイアッテナ

斉藤 洋 作 講談社 913-サ

黒ねこのルドルフは、ぬすんだししゃもをくわえて魚屋からにげていました。トラックの荷台にとびのるしゅんかん、魚屋が投げたモップがルドルフの頭に命中して、目の前がまっくらになります。そして目をさますと、まったく見覚えのないけしきでした。ルドルフがトラックからとびおり路地にはいると、とてつもなく大きなトラねこがとびおりてきました。

バッテリー

あさの あつこ 作 教育画劇 913-ア

四月から中学生になる巧は、父の転勤でおじいちゃんの家へ引っ越すことになりました。むかし、祖父が高校野球の監督をしていたことを調べた巧は、変化球の投げ方を教えてほしいと頼みますがことわれます。神社へランニングに行った巧が帰り道に迷っていると、肩幅も身長も巧よりずっと大きい少年に出会いました。

ツバメ観察記

孝森 まさひで 文・写真 福音館書店 488-コ

私は春に自由自在に飛んでいるツバメを見て、もっとくわしく知りたいと思いました。ツバメは渡り鳥で、秋に日本から東南アジアに渡り、春には日本へ帰ってきて子育てをします。5月になって、ある事務所の軒下のかべに作りはじめたばかりのツバメの巣を見つけ、私は観察をはじめました。